


# 鞍手地区点検評価委員会の意見書

平成30年8月23日


鞍手町教育委員会 殿

点検評価委員会


委員 福岡教育大学

豊島啓司 


委員 宮若市

波止 陽 

委員 鞍手町

染川喜久夫 

委員 小竹町

飯野裕 

平成29年度の貴教育委員会の運営状況について、点検及び評価をしましたので、別紙のとおり意見を報告いたします。

別紙

	点検及び評価に関する委員会の意見
教育委員会の開催状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 委員会の運営及び委員活動については、概ね良好に実施運営されている。</li> </ul>
教育施策の主要施策の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 適正な教育課程の編成・実施（移行措置の確実な推進）</li> <li>○ 学力向上プラン（P. D. C. A）</li> <li>○ いじめ・不登校児童生徒の取り組み強化</li> <li>○ 学習アシスタントの配置</li> <li>○ 公民館事業の推進及び活動の促進</li> <li>○ 歴史民俗博物館、石炭資料展示場の充実・発展</li> </ul>
取組・事業の状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 全国学力学習状況調査・福岡県学力調査を実施し、その結果を踏まえて、学力向上検証委員会・学力向上推進委員会等を行い、各学校での課題や成果を見つけ、学力向上への取り組みを行っている。</li> <li>○ 心の充実を図るため、中学校にスクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーを配置して、いじめ、不登校問題について取り組んでいる。また、中一ギャップによる不登校等の問題が起こらないように、小中連携授業として合同説明会、体験授業を行った。</li> <li>○ 子どもの読書推進計画を推進するため、各小学校にアンケート調査を実施した。その結果、家庭での読書は、少しの増加傾向にあるが、「うちどく」そのものの用語は、広まっていなかったことを踏まえ、8ページの「うちどく」を紹介するパンフレットを作成し、各校に配布した。お話の会前に、チラシの配布を徹底したので、参加者が増加した。今後も、子ども読書活動の普及に努める。</li> <li>○ 博物館では、10月から約2ヶ月間、企画展「うけつがれる猿舞の芸ー筑豊大介の仕事」を開催し、1,108名の来館者があった。今後も、企画展の内容の充実させるため、詳細な調査を行い、わかりやすい展示を心がけ、新たな企画に取り組んでいく。</li> </ul>

教育施策の主要施策	④健康・安全指導の充実に努める	○ 各小中学校において、体力向上プランを作成し体力向上の取組を進めている。また「1校1取組」を作成し重点化した実践を行った。
	⑤教職員の研修活動の促進と資質の向上を図る	○ 町主催の夏季研修会を実施し、全教員を対象に道徳及び英語の教科化に向けて研修を行った。  ○ 小中連携事業として、各中学校単位で、授業の公開、分科会を行い、小中学校間の連携を強めた。
	⑥教職員の職務遂行とサービスの厳正化に努める	○ 校内研修や県教育委員会の研修会に積極的な参加を促し、交通事故及び飲酒運転の防止、わいせつ行為、政治的行為、個人情報の適切な取扱い、その他信用失墜行為など、綱紀の厳正な保持について取組を行っている。また、各学校では、管理職の日常的な綱紀の厳正な保持についての指導が行われている。
	⑦教育諸条件の整備充実に努める	○ 小学校では、剣南小学校・剣北小学校の「屋上防水工事」、鞍手中学校の「グラウンド防犯灯設置工事」、「グラウンド側溝浚渫業務委託」、などを 実施。その他には小中・高校の緊急的な修繕工事などを施工したことにより、施設環境の整備が図られた。
	⑧学校週5日制の対応を図る	○ 「子どもフェスタくらて」を実施する際に各小学校区より30名の実行委員が10回の実行委員会を開催し、さまざまな体験型イベントを計画した。  ○ 学校、家庭、地域との連携のために、様々な機会を捉え、広報活動を行っているため、学校・家庭・地域との連携は徐々にとれています。
	⑨学校給食の衛生管理と指導の徹底を図る	○ 学校共同調理場の運営については、調理員や配送員の人員の安定した確保が難しかったため、学校給食を安全に、また、安定的に提供する体制を確立するため、民間委託導入検討委員会を5回開催し、一部民間委託が提言された。平成29年12月に調理・配送業務の民間委託業者を選定し、平成30年度から実施する。  ○ 児童生徒が望ましい食習慣や生活習慣を確立できるよう、学校における指導を継続するとともに、保護者対象の試食会や講和などをおして家庭との連携を図ることが出来ました。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">教育施策の主要施策</p>	<p>⑬生涯スポーツの振興に努める</p>	<p>○ インターネットによる施設予約等により、住民サービスの向上につながった。</p> <p>● 町体育協会では9団体 556名が会員として活動しているが、団体によっては会員の減少により、活動の低迷がみられる。また、町民が一同に集まり、親睦を深め、スポーツを行える町民体育祭を開催してきたが、昨今出場者が減少傾向にあり、実施内容について今後検討が必要である。</p> <p>● 町民一人ひとりがスポーツに親しみ、健康で楽し暮らしているような施設の提供及び管理運営をしているが、各施設の老朽化が進み、一部修繕、改修工事の箇所が多くみられるため、今後も計画的な修繕工事が必要である。</p>
	<p>⑭豊かな文化的環境づくりに努める</p>	<p>● 文化連盟主催の芸能まつりには、12団体が参加し、多くの参加者や見学者があった。また、秋にしている美術展は、高齢化と会員不足の状況は続くが、「公民館まつり」と合同開催することによって、多くの方々に参加している。今後も、継続して文化活動の育成、振興に努める。</p> <p>○ 日頃より、文化財を紹介する解説板を計画的に修理、新設し、文化財保護活用に努めている。</p> <p>○ 博物館では、10月から約2ヶ月間、企画展「うけつがれる猿舞の芸-筑豊大介の仕事」を開催し、1,108名来館者があった。 今後も、企画展の内容の充実させるため、詳細な調査を行い、わかりやすい展示を心がけ、新たな企画に取り組んでいく。</p>
	<p>⑮人権教育・人権啓発の推進強化</p>	<p>○ 小学生・中学生を対象として人権子ども会を実施し、学習や体験活動を通して人権啓発の充実あるものにすることができた。今後も継続していく。</p> <p>○ 本年度、地区懇談会は学校行事と連携したことにより地域の方々が生徒と一緒に受けることのできる講座の開設となり参加者の大幅な増に繋がった。</p>

取組・事業の状況	社会教育施設修繕	12,019	体育施設・公民館施設・文化財・博物館などの、維持補修、並びに文化財保護のための改修工事等を行い、利用者の利便性を図っているが、今後も優先順位を付した施設の維持管理に取り組んで行く
	施設管理委託	23,254	体育施設・公民館施設・文化財・博物館などの、持管理についても適切な業務委託契約を締結し施設管理を行う。
	文化連盟育成補助	400	前年度と同様に、文化連盟の会員は、ここ数年高齢化が進み、活動が衰退する傾向にあり、後継者の不足と若い人材の確保が早急の課題である。
	自治公民館育成費補助金	744	各自治公民館の活動状況を確認するため、45公民館にアンケートを実施した。今後はこれらのアンケート結果を参考にして、自治公民館活動の支援に努める。
	青少年育成費補助	1,040	地域と学校が連携して行う活動である。今後も継続活動を行う必要がある。
	子ども会育成補助	160	子ども会連絡協議会が主体となって、地域の子ども会活動の指導を行っているが、子どもが年々減少している中、時代に対応した子ども会活動を支援していくことが必要である。
	スポーツ推進委員	360	スポーツ推進委員は各体育行事の普及活動に尽力していただいております、町民の健康増進の観点から不可欠な存在である。
	町体育協会補助	911	町体育協会は町内で活躍するスポーツ団体に支援を行っており、今後においても必要である。
	文化財保護団体助成	144	文化財保護団体は地域の歴史資産や伝統芸能を継承する重要な役割を持っており、今後においても重要な団体であるため、各団体に補助金支給し、文化財保護活動を支援する。
	人権・同和問題担当者啓発冊子・研修会講師謝金等	1,708	人権問題地区懇談会は、同和問題をはじめとしたあらゆる差別を根絶するために重要な事業であり、本年度も、学校行事と連携したため参加者増が図られた。